

日本リトルシニア 中学硬式野球協会
シニア 関東連盟 情報
毎月 第1・3水曜掲載

ミスノ旗杯2018関東連盟秋季大会

◇11月3、4日準決勝、決勝、3位決定戦
神奈川・サテイトーフォード保土ヶ谷球場ほか
佐倉が世田谷西を押し切って、優勝を飾った。
準決勝は佐倉と世田谷西が勝ち上がった。決勝で
佐倉は2-2の同点の5回、相手の守備の乱れを
ついて2点勝ち越し、7回に1点を追加し、5-1
で秋の関東王者に輝いた。世田谷西は3年連続
で秋2位。静岡裾野と秦野の3位決定戦は、1回
に秦野が2点を先制したが、静岡裾野が3回に4
連続長短打で3点を挙げ逆転、3位となった。

佐倉 秋の関東王者



持ち前の打撃力を発揮し、優勝した佐倉

▽決勝
佐倉 00112015
世田谷西 00200002

春の選抜へ弾み
佐倉が相手守備の乱れを
巧みに利用して優勝を飾った。決勝、1-2の4回、先頭の吉野太陽主将が世田谷西の失策で出塁し、内野安打と犠打で2死ながら三塁に進み、バッテリーミス

3年連続決勝涙
世田谷西は守備の乱れが響いた。0-1の3回1死後、村岡龍、宮塚隼介主将の連打で、三塁とし、4番浅倉大聖の右犠飛、5番根岸慶の右翼線二塁打でいったんは2-1と逆転した。
しかし、その後も守備の乱れを修正できず、再度逆転を許した。宮塚主将は「悔しいです。エラーもたくさんあった。こういう試合をもうしないように切り替えて練習します」と前を向いた。
今大会前に佐倉にオー



3年連続で秋季大会準優勝の世田谷西

守備乱れ2位
3年連続で秋季大会準優勝の世田谷西は、今年も守備の乱れが響いた。0-1の3回1死後、村岡龍、宮塚隼介主将の連打で、三塁とし、4番浅倉大聖の右犠飛、5番根岸慶の右翼線二塁打でいったんは2-1と逆転した。しかし、その後も守備の乱れを修正できず、再度逆転を許した。宮塚主将は「悔しいです。エラーもたくさんあった。こういう試合をもうしないように切り替えて練習します」と前を向いた。今大会前に佐倉にオー



先制も実らず4位の秦野

記録で見る秋季関東大会4強
記録員歴10年で数多くの試合を記録してきた関東連盟記録委員長・深澤氏に、2日連続の試合となったこの大会ベスト4の準決勝以降の記録をまとめてもらった。
▼投手 週1回の準々決勝までは完投も多かったが、連続試合となり、投球回数制限があるため1チーム2~4人の投手が登板し、継投になった。最高防御率は世田谷西の田上遼平投手の0.58。
▼打撃 最高打率は世田谷西の浅倉大聖選手で7割2分7厘と、2試合ながら高打率をたたき出した。また、4試合で本塁打4本、三塁打9本、二塁打20本と、ベスト4チームでは多くの長打が出た。犠打は優勝した佐倉が7本を決め、チャンスを広げている。

守備、走塁 記録からの判断は難しいが、ベスト4のチームは「これが中学生の守備か」と思うほどの好守を内、外野とも随所で見せていた。長打が多かったのは好走塁の結果ともいえる。盗塁は静岡裾野が2試合で7つを記録。守備、走塁は練習の成果と言える。

試合時間 秋季大会全体の平均試合時間は1時間51分で、関東連盟が目標とする1時間35分(7回)をクリアできなかった。その中で3位決定戦1時間30分、決勝1時間37分だったのは、4チームの攻守交代の素晴らしさに起因していると思われる。

佐世田谷西70静岡秦野

で生還して同点とした。5回には内野安打と野選の無死一、二塁から、3番及川将吾の右犠飛と相手失策で2点を挙げて勝ち越し、7回には2本の長打でダメ押しした。吉野主将は「最高の大会を通じてギリギリの戦いをしてきたので成長できていると思います。打撃のチームなので先制されても取り返せると思っていました」と笑顔を見せた。松井進監督は「優勝はたまたまです」と笑い「このチームは投手が左右6人い



逆転勝ちで3位に入った静岡裾野

るで面白い」と評価した。看板の打撃については「馬力はあるんですけど、当たらない方が多い」と今度は苦笑い。決勝では送りバントのミスが目につき、目標の日本一には修正が必要となる。
春の全国選抜大会には今年関東代表最後の枠で出場して2位。来年は王者として臨むことになりそう。「いいことばかりではないので、悪い方へ流れないように練習します」と、気を引き締めていた。

逆転勝ちで3位
○静岡裾野 今夏の日本選手権優勝もあって「新チームのスタートが遅れたので、どうも試合をするか楽しみにしていた」という松川良監督。順調に勝ち上がったが、準決勝で佐倉にまさかのゴール負け。気持ち切り替えた3位決定戦で秦野を押し切った。2点を先制されたが、3回2死後、9番森部大智の安打を足場に、北嶋優希主将、三枝快飛(かいと)の連続三塁打、岸本一心(い

投手陣の整備必要
●秦野 牧嶋和昭監督は4位で終わった大会を振り返り「投手陣の整備ですね。清水(樹)のほかにもう1枚、来年に向けて明確な課題ができた」と話した。3位決定戦では「出だしはよかったが、相手投手(岩田悠聖)が丁寧な投げていて打てなかった」と振り返った。1回、先頭の上笹恭吾の安打を足場に1死満塁のチャンスをつくり、5番松永陽登(はると)の左中間への二塁打で2点を先制した。しかし、その後は好機に1本が出ず、走塁ミスもあってゼロ行進が続いた。石澤憲太主将は「目標は優勝だった。いいところも悪いところもあった。全国で優勝できるように、これから頑張りたい」と悔しそうだった。